

社会課題 学生の視点 町田で活動報告会



2種類のリンゴジュースを飲み
比べるなどして、フェアトレード
について考える参加者ら

町田市や近隣地域の学生団体による活動報告会「ガクマチEXPO」が21日、同市原町田の市生涯学習センターで開かれた。

この日は、フードロスや児童虐待の防止といった様々な社会課題などの解決に向け、学生たちの視点で考察された内容を発表。同市にキャンパスがある桜美林

大、玉川大、法政大、和光大のゼミなど11団体が参加した。

玉川大リベラルアーツ学部の太田美帆教授（国際協力）のゼミ生3人は、交流のある岩手県陸前高田市のリンゴジュースを題材に、農産物や製品を適正な価格で取引するフェアトレードについての発表を行っ

た。外国産リンゴの果汁を混ぜ合わせた濃縮還元ジュース（税込み109円）と、同市米崎地区のリンゴ5個分を搾った香料など無添加のジュース（同850円）を参加者に飲み比べてもらい、それぞれの価格などを予想してもらった。

リーダーの3年、名取ゆかりさん（21）は「学外の人たちの前での発表は緊張したが、交流してきた地域の商品の販売を『自分事』として考えることができた」と話していた。